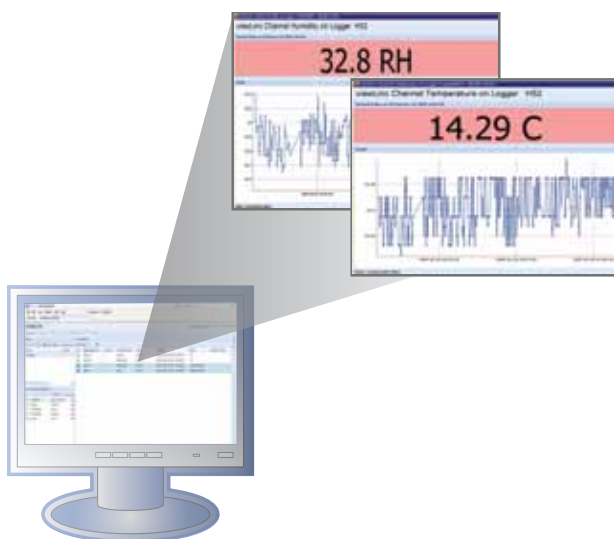


ユーザー ガイド

viewLinc 3.6

バイサラ ベリテック viewLinc ソフトウェア



著作権

著作権 © 2011 Vaisala Canada Inc. 著作権所有。

Vaisala Canada Inc. の書面での明示された許可なしで商用目的での本文書の全部あるいは一部の複製、配布、出版、変更、あるいは編入を行うことは許可されません。

Vaisala Canada Inc.
13775 Commerce Parkway
Richmond, BC V6V 2V4
Canada

商標

Vaisala Canada Inc.、ヴァイサラ Veriteq、ヴァイサラ Veriteq vLog、ヴァイサラ Veriteq viewLinc、およびヴァイサラ Veriteq Spectrum は Vaisala Canada Inc の登録商標です。

Windows は Microsoft Corporation の登録商標です。

すべてのその他の各商標は、それらの各自所有者の所有物です。

免責および責任の制限

Vaisala Canada Inc およびその各関連会社は、本マニュアルの使用から派生するいかなる損害あるいは損失について一切責任を負いません。

Vaisala Canada Inc およびその各関連会社は、本ソフトウェアの使用で潜在的に発生する可能性のある各サードパーティーによるいかなる損害あるいは請求について一切責任を負いません。Vaisala Canada Inc およびその各関連会社は、ハードウェア誤動作の結果として発生するデータの削除による起因するいかなる損害あるいは損失について一切責任を負いません。データ損失を防止するためにすべての重要データの各バックアップ コピーの作成を徹底されるようお願いいたします。

Vaisala Canada Inc は、ヴァイサラ Veriteq データ ロガー、ヴァイサラ 300 シリーズ変換機、またはソフトウェア、その市販性、あるいはその特定目的への適合性に関連して明示、あるいは暗示に関わらずいかなる保証も

行いません。この包含される各保証項目の除外は、いくつかの州によって許可されていません。このような場合には、この除外はお客様に適用されない場合もあります。Vaisala Veriteq は、さまざまなネットワーク システムを使用して試験されています。しかしながら、可能であるハードウェアおよびネットワークの各構成の膨大な組み合わせの数は、それぞれの状況下での試験を不可能にしています。ヴァイサラ Veriteq viewLinc ソフトウェアを使用している問題がある場合には、Vaisala 株式会社にご連絡ください。

技術サポート

日本地域においての技術サポートについては、03-3266-9611 にお電話いただくか、または、日本地域以外のお客様については、「ヘルプの表示」、ページ 1 をご参照ください。

電子メール aftersales.asia@vaisala.com へご連絡ください。

文書管理番号：M211346JA-A

発効日付：April 2011

内容

第章:始める前に	1
viewLinc の概説	2
ViewLinc へのログイン	3
ヘルプの表示	5
第章:チャンネル	7
チャンネルについて	8
チャンネルとは何ですか?	8
「マイ チャンネル」はどこにあるのですか?	8
チャンネル画面を理解する	9
ラージ チャンネル ビューを開く	11
各リアルタイムのグラフ	11
ラージ チャンネル ビューでのグラフの読み取り	12
ラージ チャンネル ビュー内でのグラフ	
詳細の表示	13
ラージ チャンネル ビューからのアラームの受信確認	14
チャンネル カラムの整理	15
チャンネル カラムの非表示および表示	15
第章:アラーム	17
アラームについて	18
アラームがトリガーされると何が起きるのですか?	19
アラームの受信確認	20
第章:イベント	23
イベントの表示	24
イベントへのコメントの追加	25
イベント ログの印刷	25
「イベント ログ」のエクスポート	26

第章:レポート	27
履歴データについて	28
履歴データ レポートの生成	28
アラーム履歴レポートの生成	28
チャンネル履歴レポートの生成	30
目次	35

第章：始める前に

本セクションに含まれている項目：

- viewLinc ヴァイサラ Veriteq 環境モニタリングシステム (CMS)
- 状態を監視するにはインターネット ブラウザーから viewLinc にログインする

viewLinc の概説

ようこそ viewLinc 3.6 へ。viewLinc を使用することで、サポートされているバージョンの Microsoft® Internet Explorer® または Mozilla® Firefox® インターネット・ブラウザを使用してネットワーク経由で Veriteq データ ロガー読み取り値をローカルで簡単に監視することが可能です。

viewLinc 3.6 で可能な各機能：

- ローカルまたはリモート PC から複数のデータロガーの環境の監視
- グラフィック形式でのリアルタイム データの表示
- 履歴データおよびアラームレポートの生成
- モニター中の状態が準拠外であるかまたはネットワーク通信の問題が発生した場合の、可視化アラームまたは電子メールアラームの受信
- いつアラームがトリガーしたか、受信確認されたか、またはロガー通信問題が発生したかを、自動文書化されたロガーイベントを用いて解析
- ヴァイサラ Veriteq ロガー データ（「履歴データ」として参照）のスケジュール転送。このデータはヴァイサラ Veriteq Spectrum または vLog ソフトウェアを利用して表示およびグラフ化できます
- 稼働している各ロガーまたは各ゾーンを容易に識別
- アラーム通知用の事前構成済みのコメントの作成

インストールされると、viewLinc ヴァイサラ Veriteq 環境モニタリングシステム は、各ソフトウェアコンポーネント (viewLinc を含む)、および各ハードウェアコンポーネント (データロガー、サポート済みのインターネットブラウザを持つ PC、および各ロガーの PC への接続形式に基づくいくつかのケーブルなど、ヴァイサラ Veriteq vNet または Digi ネットワークデバイスを含む) で構成されています。

担当の管理者がご利用の目的に最適な方法で viewLinc のインストールを決定します。Firefox 3.5 またはそれ以降のバージョンまたは Internet Explorer 6.0 またはそれ以降のバージョンがインストールされたユーザー PC 上でログインすることで viewLinc との対話が可能になります。すぐにログインしてみましょう。


ViewLinc へのログイン

viewLinc で可能な作業:

- ロガーにより記録された環境および viewLinc 履歴データベース内に記録されている環境のモニタリング (温度および相対湿度など)。
- 条件が既定の設定の範囲外であるか、または通信障害が発生しているかした場合のアラームの受信

[ログイン] してください。サポートされるインターネット ブラウザーは、Microsoft Internet Explorer 6.0 またはそれ以降、または Mozilla Firefox 3.5 またはそれ以降をです。

viewLinc へのログイン方法:

- 1 デスクトップ上のアイコンをダブルクリックします 。
- 2 または、サポート済みのインターネット ブラウザーのアドレスボックス内に、viewLinc がインストールされているコンピューターの名前または IP アドレス、およびそのポート番号を入力してください。担当の管理者が正確なアドレスを提供します。例: http://computername:portnumber (何もポート番号が指定されない場合、ポート番号 80 (:80) がデフォルトで使用されます)。
- 3 ログイン画面に、ご使用のユーザー名およびパスワードを入力してください。[ログイン] をクリックしてください。



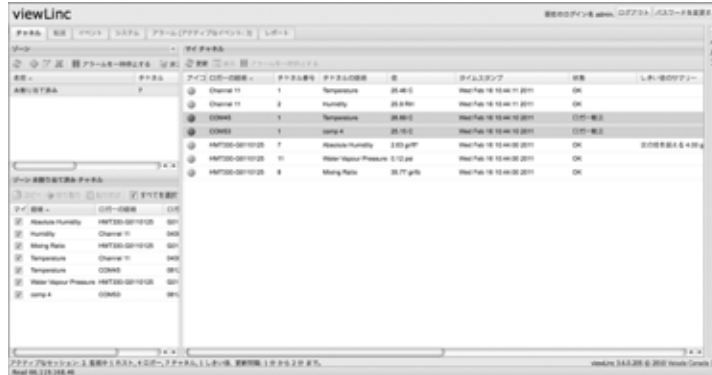
viewLinc にログインする

ユーザー名: admin

パスワード: *****

ログイン

- 4 メイン viewLinc 画面が現れて、利用可能なチャンネル、または (初めてログインされた場合) 空白の「マイ チャンネル」画面が表示されます。



チャンネル データが何も見られない場合には、[チャンネル] タブに移動してください。「ゾーン」エリア内で、リストからチャンネルを選択して、[更新] をクリックしてください。ここで選択済みのチャンネルのデータが表示されるようになります。

何もチャンネルが表示されない場合、ご使用のデータ ロガーが適切に接続されていない可能性があり、ご利用になるチャンネルが割り当てられていない場合か、または viewLinc 自体に障害が発生しているかの可能性があります。以下の場合には担当の管理者に報告してください。

注意： 担当の管理者が、システムセキュリティ確保の目的でパスワードを確認するためのダイアログを定期的に表示させるよう設定している場合があります。ダイアログが表示された場合、ご使用のパスワードを再入力してください。

チャンネルに関する詳細については、第章：チャンネルをご参照ください。

ヘルプの表示

サポートを必要とされる場合は、技術サポートがご利用可能です：

北米

Vaisala Canada Inc、午前 8 時 ~ 午後 4 時 太平洋標準時間 月曜日 ~ 金曜日、+1-866-861-3388 (または +1-604-273-6850) (いずれも現地電話番号) または電子メール veriteqsupport@vaisala.com までご連絡お願いいたします。 www.vaisala.com/veriteq もあわせてご参照ください。

セールス、価格設定、お見積り、または一般的情報についてのお問い合わせは、+1-800-683-8374 (または +1-604-273-6850) (米国電話番号) までご連絡お願いいたします。

北米以外：

helpdesk@vaisala.com

ヴァイサラ本社 (フィンランド)

Vanha Nurmijärvientie 21
01670 Vantaa
FINLAND
Industrial Instruments
電話：+358 9 8949 2658
ファックス：+358 9 8949 2295

日本サービス センター

東京都
新宿区
神楽坂 6 丁目 42
郵便番号 162-0825
電話：03 3266 9611
ファックス：03 3266 9610

中国サービス センター

中国
北京市
朝陽区
東三環北路霄雲路 21 号、
郵便番号 100027
電話：+86 10 5827 4100
ファックス：+86 10 8526 1155

第章：始める前に

第章：チャンネル

本セクションは管理者および一般ユーザー向けです。

このセクションにおける学習事項：

- チャンネルおよびゾーン
- 「マイチャンネル」内の表示のためのチャンネルおよびゾーンの選択
- ラージチャンネルビューを開く
- ラージチャンネルビュー内でのリアルタイムグラフの表示および作業

viewLinc 内でのチャンネルの取り扱いについて学習を始めます。

チャンネルについて

チャンネルとは何ですか？

インストールされたヴァイスラ データ ロガーによって、ロガーが温度、相対湿度、電圧および/あるいは電流の測定用の最大5つのチャンネルを所有しています(1つのチャンネルが各測定のパラメータに使用されます)。

注意： 300 シリーズ変換器は出力の数がチャンネルとして表示されます。


各チャンネルは、測定中であるデータのタイプを表示しています。viewLinc を使用して、そのネットワークに接続されているあらゆるデータ ロガー チャンネルを監視することができます。

最初に viewLinc にログインされると、チャンネル ウィンドウが表示されます。このウィンドウで表示される各項目：

- 監視用に利用可能なゾーン
- 選択済みゾーン内の利用可能なデータロガー チャンネル
- アクティブな監視チャンネルおよび実際のチャンネル データ
- しきい値インジケータ
- 状況に応じたヘルプ

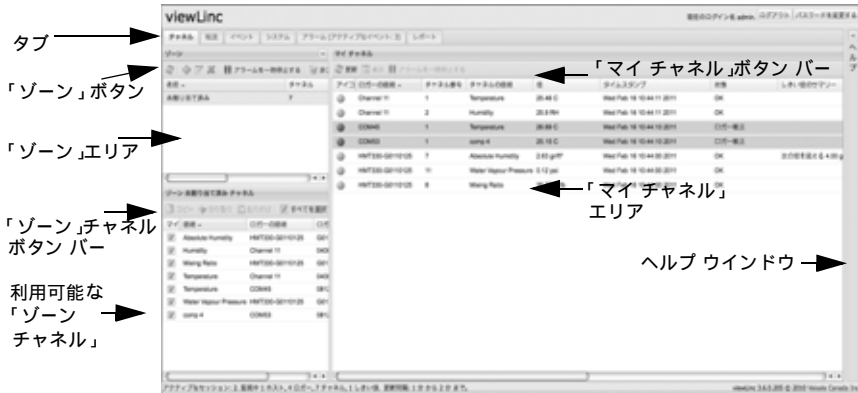
「マイ チャンネル」はどこにあるのですか？

「マイ チャンネル」エリア内に何もチャンネルが見つからない場合、以下の原因が考えられます：

- 選択済みのゾーンまたはチャンネルが存在していない。「ゾーン」エリア内で、少なくとも1つのチャンネルまたはゾーンがその側のチェックボックスで選択済みであることを確実にしてから、「マイ チャンネル」エリア内の  【更新】 をクリックしてください。
- ご使用のロガーが適切に接続されていない可能性があります。担当の管理者に報告してください。

チャンネル画面を理解する

viewLinc 内の「チャンネル」画面には多くの重要な機能が含まれています：



アイテム	詳細
タブ	メイン viewLinc タブに含まれる項目：チャンネル、転送、イベント、システム、アラーム、レポート。
「ゾーン」ボタン	[更新]、[アラームの一時停止]、などを含んでいます。
「ゾーン」エリア	ゾーンの構成が行われる場所です。各ゾーンを使用して viewLinc に接続されているチャンネルを整理します。
利用可能な「ゾーン」チャンネル	選択済みゾーン内で利用可能なデータロガーチャンネルの一覧。
「マイチャンネル」エリア	チャンネル構成の詳細、現在のデータ読み取り値、直近のタイムスタンプおよびしきい値アラーム設定情報が含まれています。

表 1: 「チャンネル」画面の重要な要素

「マイ チャンネル」は、ご使用の各ロガーおよび各チャンネルの一般的情報を表示しています。ほとんどのカラムはすぐご理解いただけると思いますが、viewLinc の理解を深めるためのいくつかの定義項目を説明します。すべてのオプションを表示するには、「チャンネルカラムの非表示および表示」、ページ 15 をご参照ください。

カラム	表示項目
ゾーン	チャンネルが整理されているゾーンです。
ロガーの説明	ロガーの説明 ([システム] タブから編集可能)。
チャンネル番号	対象ロガーのチャンネル番号 (各ロガーは 1 つ以上のチャンネルを保有していおり、これらを 1、2 というようにラベル付けています)。
チャンネルの説明	チャンネルの説明 ([システム] タブから編集可能)。
値	チャンネルの値、例：摂氏表示での温度。
タイムスタンプ	直近のチャンネル読み取りが実行された時刻
状態	現在アクティブなアラームが存在しない時、[OK] が現れます。1 つのしきい値アラーム条件またはあらゆるそのほかのアラームが検出されている場合はそれを表示します。
しきい値のサマリー	しきい値状態のサマリー、アクティブな場合
アラーム	このチャンネルまたはロガーが現在アラームを発生させているのかどうかを表示します (アラームしきい値に到達している状態)。


表 2: 「マイ チャンネル」内の各カラムの情報

ラージチャンネルビューを開く

このウィンドウには、このチャンネルの直近のデータ読み取り値、あらゆる関連したしきい値設定、最近の履歴データのグラフィカル表示、およびアクティブなアラームを表示するためのエリアが含まれています。

注意： 単一のウィンドウ内で1つの特定のチャンネルを表示するか、または複数のチャンネルウィンドウを開くことが可能です。Internet Explorer をご使用の場合には、新しいウィンドウまたはタブ内で新しいリンクを開くように設定されていることを確実にしてください。[ツール] | [インターネット オプション] と移動してから、[全般] タブ上のタブ セクションで、[設定] をクリックして、「他のプログラムのリンクを開く方法」で [現在のウィンドウの新しいタブ] を選択します。

ラージチャンネルビューを開く方法：

- 1 「マイチャンネル」エリア内の [チャンネル] タブから、表示したいチャンネルを選択してください。
- 2  [表示] または選択済みのチャンネルのラインをダブルクリックします。
選択済みのチャンネルについての情報を含んでいる新しいサイズ変更可能なウィンドウが現れます。
- 3 複数のラージチャンネルビューを表示するにはステップ1および2を繰り返します。


ラージチャンネルビューを閉じるには、そのウィンドウの上部右隅にある [閉じる] ボックスをクリックします。

アラームを受信確認するには、「アラームの受信確認」、ページ20をご参照ください。

各リアルタイムのグラフ

viewLinc では、いつでもライブデータをグラフィカルに表示可能です。各グラフは最後の300または1000のデータポイント（ロガーに設定されたサンプル取得間隔およびご使用のインターネットブラウザに依存します）、および対応する期間のしきい値を表示しています。

1つのグラフとしてライブ データを表示する方法：

- 1 [チャンネル] タブから、「マイ チャンネル」エリア内で、表示したい1つのチャンネルを選択してください。
- 2  [表示] をクリックします (またはその選択済みのチャンネルのラインをダブルクリック)。これでそのラージ チャンネルビューが開かれます。

1つの画面内で、直近の履歴傾向を表示することができ、より詳細な読み取り値を特定のポイント上でマウス ポインターをポイントすることで表示させます。

ラージチャンネルビューでのグラフの読み取り

1つのチャンネルを開いている場合、そのロガー読み取りの数値表示およびグラフィカル表示の両方の読み取りが可能です。以下はこのグラフ描画エリア内の主要な要素の説明です：

アイテム	説明
タイトルバー	アクティブなロガーの名前およびデータ読み取りのタイプ(湿度、温度、電圧または電流)を表示します。
ヘッダーバー	直近の読み取りの日付および時刻を表示します、ここでのタイムゾーンはこのブラウザが実行されているPCのタイムゾーン設定に依存します。
数値表示エリア	ユーザーにより定義済みの単位で、直近のデータ値を表示します(変更するには「温度測定単位の優先項目の選択」、ページ70ページをご参照ください)。
グラフエリア	データ履歴のグラフィカル表示がここに表示されます。
左側Y-軸	このグラフ内で表示されるデータのスケールを表示します。
X-軸 時間のスケール	レポート時間フレームを表示します(Internet Explorer 6.0 をご使用の場合には、最後の300データポイントのみが表示されます、すべてのその他のブラウザは最後の1000ポイントを表示します)。
チャンネルのライン	1つのラインにより履歴測定読み取り値のトレンドを表示します。特定のポイント上にマウスポインターをポイントして、X-軸およびY-軸の数値を表示することができます。
しきい値ライン	履歴しきい値を表示する色付きのラインにより表示されます(しきい値設定に基づきます)。マウスを移動しながら、特定のX-軸およびY-軸の数値を表示するために特定のポイント上でマウスポインターをポイントさせます。

表 3: ラージチャンネルビューの各要素

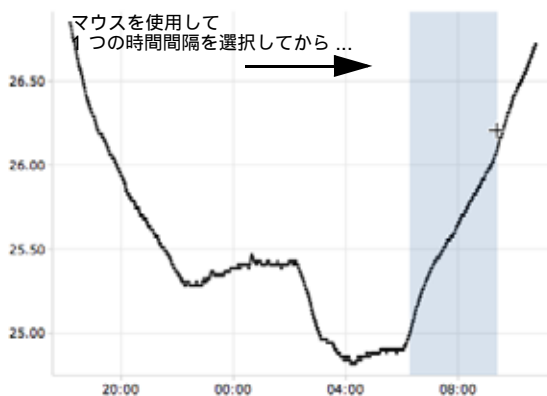
アイテム	説明
アクティブなアラーム エリア	アクティブなアラームの詳細の表示：しきい値とその超過した量、アラーム日付および時刻、該当するアラームの受信確認状態、およびその確認したユーザー。ユーザーがアラームを受信確認することができます。
状態バー	チャンネル監視状態を示します (OK またはアラーム状態)。

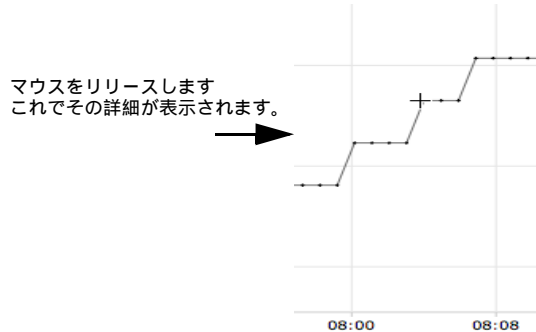
表 3: ラージチャンネルビューの各要素

ラージチャンネルビュー内でのグラフ 詳細の表示

ラージチャンネルビューが開かれていると、特定の時間間隔での拡大も可能です。

そのグラフ上のいずれかの場所をクリックして、カーソルを右側にドラッグして拡大したい時間間隔を反転表示させて、リリースします。この拡大済みエリア表示は次回のライブ更新まで表示されます。直ちにフルビューに復帰するには、このグラフ上の任意の場所をダブルクリックしてください (またエリアを選択し、左にカーソルをドラッグしてから、リリースしても復帰します)。






レンジ チャネル ビューからのアラームの受信確認

レンジ チャネル ビュー ウィンドウから、アラームを受信確認できます。

レンジ チャネル ビューからのアラームの受信確認の方法：

- 1 ランジ チャネル ビューの「アクティブなアラーム」パネルから、【受信確認】をクリックします。
- 2 現れた【アラームを受信確認する】ダイアログ ボックス内に、現在のアラーム状況の修正のために実行された操作を説明する情報を入力するか、または一般的なコメントを入力するかしてください。
- 3 【受信確認】をクリックしてください。

チャネル カラムの整理

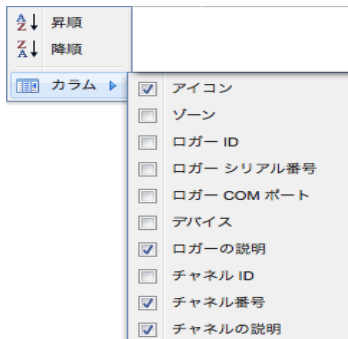
「マイ チャネル」内での表示順序の再並び替え方法：

- 1 【チャンネル】タブ上の「マイチャンネル」エリア内で、黒色の【オプション】ボタンが現れるまでカラムヘッダー上にてマウスポインターをポイントさせます。
- 2 このボタンをクリックして、【昇順】または【降順】を選択するか、または対象カラムヘッダーをクリックすることですべての行を並び替えられます。逆の順で一覧の再並び替えするにはもう一度クリックしてください。

チャネル カラムの非表示および表示

「マイ チャネル」内でのカラム非表示の方法 :

- 1 チャネル] タブ上の「マイチャネル」エリア内から、いずれかのカラムヘッダーの上にてマウスポインターをポイントさせてから、黒色の [オプション] ボタンをクリックします。



- 2 【カラム】を選択してから、表示したいカラムを選択するか、または非表示にしたいカラムの選択を解除します。例: アラーム状態を表示する色付きアイコンを持ったカラムを表示するには、【アイコン】をクリックします。



- 3 その一覧の外側をクリックするか、または [Esc] を押してそのオプションの一覧を非表示にします。

ここではチャネルがどのように機能するかを見てきました - これからはどのように 受信確認 を実行するのかを見ていきます。

第章：アラーム

アラームおよびアラーム受信確認は、ヴァイサラ Veriteq 環境モニタリングシステムでの成功へのカギの 1 つです。

この章における学習事項：

- viewLinc 内でのアラームのタイプの理解
- アラーム テンプレートの作成
- しきい値および通信アラームの設定
- アラームの非アクティブ化および再アクティブ化
- アラームの受信確認
- アラームの一時停止

アラーム レポートの生成方法について学習するには、以下をご参照ください第章：レポート。

アラームの取り扱いについての学習を始めます。

アラームについて

「フルコントロール」、「アラームを構成する」、および「カスタム化しきい値を構成する」権限を持つユーザーのアクセスのみで、アラーム制限値を設定可能であり、諸条件がこれらの制限値を超過した時、アラームがトリガーされ、該当条件の主要な職員に通知されます。「アラームを受信確認する」のアクセス許可またはそれより上位のアクセス許可を持つ職員が、viewLinc でアラームの受信確認を実行します。すべての処理は「イベントログ」および「履歴データベース」内に記録されています。

viewLinc 内のいくつかのアラームの種類：しきい値アラーム、通信アラーム、イベント ログ検証アラーム、およびロガー サンプルングアラーム。検証可能なロガーを使用されている場合には、ロガー検証アラームおよび校正アラームをも受信することとなります。

viewLinc を使用して、[システム] | [ロガー] タブから構成することで、しきい値、通信およびロガー アラーム用に発行されるアラーム情報のカスタム化が可能です。

しきい値アラーム

しきい値アラームは、諸条件（温度および相対湿度など）が許容制限値を逸脱した時にユーザーに通知するものです。

デフォルトではしきい値アラームは有効化されていません。特定のしきい値超過した場合にしきい値アラームをトリガーするには、割り当て済みのアクセス許可を持つユーザーがこれらを構成する必要があります。

通信アラーム

通信アラームは、ホスト（ロガー ホストまたは viewLinc サーバー）と該当するデータ ロガー間での通信が停止した時にユーザーに通知するものです。これは viewLinc サーバーが該当するロガーと通信できないか、または該当するデータ ロガーの ホストへの接続が切断されていることが考えられます。通信アラームは、viewLinc の監視およびアラーム実行を中断する問題がある場合に警告を発するシステム健全テストとしても機能しています。

イベント ログ検証アラーム

「イベント ログ検証」アラームは、viewLinc イベント ログ履歴データが変更されているか、または改ざんされているかしておりもはや検証可能ではないことを示しています。

ロガー構成アラーム

「構成アラーム」を受信した場合、これは、ご使用のデータロガーがデータ履歴の記録を停止しているか、または間違っ構成されたことを示しています。これは、メモリフルで停止の設定になっている、設定した記録開始時刻になっていない、または該当のロガーに内部エラーがある可能性があります。このアラームは、Spectrum または vLog ソフトウェアを使用して該当のロガー内であるチャンネルが無効化された場合にトリガーされることもあります。この問題の修正には、vLog ソフトウェアを使用して該当するヴァイサラ Veriteq データロガー設定を検証または変更してください。この問題が解決しない場合には、担当のヴァイサラ技術担当者に連絡してください。

ロガー検証アラーム

VL- タイプのデータ ロガーをご使用の場合は、該当ロガー内の検証メモリが破損したか、または変更されてしまった場合に「検証アラーム」を受信するようになります。担当のヴァイサラ技術サポート担当者にご連絡ください。

ロガー校正アラーム

VL- タイプのデータ ロガーをご使用の場合は、ご使用のデータ ロガーが校正時期である場合に断続的な通知を送信します。受信する通知の時間間隔：校正日に先立ち 3 か月および 1 か月前、それから該当のデータロガーのスケジュールされた校正日に再度。このアラームは、該当のロガーが再校正されるまでアクティブに保持されるようになります。

アラームがトリガーされると何が起きるのですか？

アラームがトリガーされた場合の発生事項 (担当の管理者により設定される構成に依存します):

- ポップアップが現れて、該当条件の説明、アラームメッセージを表示します。ご使用のブラウザでポップアップがブロックされている場合には、エラーメッセージが現れて、viewLinc 用のポップアップを有効化するようとのダイアログが表示されます。
- 電子メールを送信可能です。構成すれば、しきい値制限値を超過した、通信が中断された、またはイベントログまたはロガー アラーム条件が存在している場合に、該当する (複数の) 指定済みの電子メール アドレスに自動的に電子メールを送信することができます。アラーム電子メールは、アラーム プロパティの設定方法に従って繰り返し送信することが可能です。

- アプリケーションを起動するか、外部デバイスをオンにすることが可能です。構成すれば、外部デバイス（ライトまたはブザーなど）またはコンピューターアプリケーション（特定の電話番号へのメッセージ送信または電話発信を可能にするパッチファイルなど）がアラーム条件の発生したときにトリガー可能です。
- 上記のすべて。担当の管理者も実行可能ですが設定することも可能です、これは指定された時間フレーム以内に最初の通知が受信確認されなかった場合に別の個人に通知を行う方法です。

アラームは viewLinc 内で受信確認されるべきであり、その状況はできるだけ速やかに処置される必要があります。すべての処理は「イベント ログ」および「履歴データベース」内に記録されており、「イベント ログ」または「アラーム レポート」内で表示させることができます。

アラームの受信確認

すべてのユーザーはアラームを受信することが可能ですが、正しいアクセス許可を付与されたユーザーのみがアラームの受信確認が可能です。


アラームが受信確認を要求するように設定されている場合、アラームは受信確認する必要があります。アラームを受信確認するには、viewLinc にログインしている必要があります。

実行された操作およびあらゆるコメントなどの受信確認情報は、「イベント ログ」および「履歴データベース」内において追跡されています。詳細については、第章：イベントおよび 第章：レポートをご参照ください。

アラームがトリガーされた時、[アラーム] タブに 1 つの新しい行が現れます。

このセクションは、[アクティブなアラーム] タブを使用したアラームの受信確認を取り扱っています。1 つの「ラージ チャネル ビュー」からアラームを受信確認することも可能です（「ラージ チャネル ビューからのアラームの受信確認」、ページ 14 をご参照ください）。

アラーム タブからのアラームの受信確認の方法：

- 1 [アラーム] | [アクティブなアラーム] から、対象のアクティブなアラームを選択してから、 [受信確認] をクリックします。

- 2 [アラームを受信確認する] のダイアログ ボックスが現れて実行された操作およびコメントの入力するよう確認してきます。



The screenshot shows a dialog box titled "アラームを受信確認する" (Confirm Alarm Reception). It has a close button (X) in the top right corner. The dialog contains three input fields: "実行された処置:" (Action performed), "事前構成済みコメント:" (Pre-configured comment), and "コメント:" (Comment). The "コメント:" field is a text area with vertical scrollbars. At the bottom of the dialog are two buttons: "受信確認" (Confirm) and "キャンセル" (Cancel).

- 3 [受信確認] をクリックしてください。入力されたコメントおよび操作は「イベント ログ」内に追加され、[アラームの受信確認] ボックスが閉じられます。「マイ チャネル」が状態内でのこの変化と共に更新されることとなります。

第章：アラーム

第章：イベント

すべてのイベント - アラーム、データ ロガーからのデータの転送、アラームの受信確認、システム構成の変更および一般的システム通知など - これらはイベント タブ内の viewLinc のイベント ログ内で追跡されています。

「イベント」内で追跡されたデータは、データ・ロガー内で追跡されたデータとは異なっています。viewLinc イベント ログは、対象の viewLinc システム内で発生しているイベントを追跡しています (ロガーから ローカルディレクトリへ正常な転送の通知など)、一方、データロガーは自身で温度、相対湿度または電圧の変化を追跡します。

viewLinc が継続的にイベント履歴を監視および記録することを確実にするために、その viewLinc イベント ログが変更されている場合にはイベント ログ検証アラームが通知します。イベント ログ検証アラームについての詳細は、第章：アラームをご参照ください。

いつどこで特定の問題が発生したかを特定するため、またはトラブルシューティングを必要とする 1 つの状態を診断するために、[イベント] タブを使用してイベントを分析します。

このセクションにおいての学習事項：

- イベントの表示
- イベントへのコメントの追加
- イベント ログの印刷
- .xls 形式へのイベント ログ データのエクスポートおよび保存

イベントの表示

イベントは、テキストベースの「イベントログ」上で表示されます。ロガーおよびシステム上で発生したすべてのイベントが含まれています。

イベントの表示方法：

- 1 viewLinc から、[イベント] をクリックします。「イベントログ」が現れ、各イベントを 1 つのリストで表示し、可能な場合は、イベントリストの右側にある「イベントの詳細」に該当イベントについてのコメントが表示されます。
- 2 日付および時刻セレクターを使用して、イベントを表示させたい時間間隔を選択してください。日付を入力するか (MM/DD/YYYY HH:MM の形式を使用) またはカレンダーを使用して範囲を指定するかしてください。




- 3 日付および時刻セレクターの右側のボタンを使用し、各ボタンを選択または選択解除して特定のタイプのイベントの詳細を表示するようにします。利用する結果をフィルターするためにイベントタイプ ボタンを選択した後、[更新] をクリックして対象のリストを更新します。より多くのボタンの数を選択解除すると、表示されるリストはより短くなります。表示可能な選択項目：
 - アラーム イベント。指定された時間間隔の間にトリガーされたアラームのリスト。
 - 管理者イベント。ViewLinc へのログインおよび新しいアラームしきい値設定など、実行された管理者操作の 1 つのリスト。
 - 転送イベント。指定された時間間隔の間に実行されたロガーデータ転送のリスト。
 - システム イベント。構成オプションの変更のリスト、または viewLinc サーバーおよびデータロガー間でのあらゆる通信の試行の失敗。

イベントへのコメントの追加

イベントの発生理由の概略または イベントや問題への応答で実行された事項など、「イベント ログ」にコメントを追加したい場合が考えられます。

「イベント ログ」へ コメントを追加する方法：



- 1 viewLinc から、[イベント] をクリックします。
- 2 コメントを追加する対象の行（イベント）を強調表示させて、 [コメントを追加する] をクリックします。「イベントにカスタムコメントを追加する」画面が現れます。



- 3 使用するコメントを入力してから、[保存] をクリックします。
- 4 特定イベントのついでに コメントを表示するには、対象のコメントを含んでいる行を強調表示させて、その「イベントの詳細」エリア内の対象コメントを探します。

イベント ログの印刷

イベント ログの印刷方法：

- 1 viewLinc から、[イベント] をクリックします。
- 2 印刷対象としたい日付および時刻を選択します。[日付/時刻] ボックス内に、日付および/または 24 時間表示で時刻を入力するか、またはカレンダー アイコンをクリックして選択を実行します。
- 3 日付および時刻セレクターの右側の各ボタンを使用して、「アラーム イベント」、「管理イベント」、「転送イベント」および/または「システム イベント」のいずれかを含めるか、含めないかを選択してください。
- 4  [更新] をクリックします。
- 5  [印刷] をクリックします。

- 6 新しいブラウザ ウィンドウ内で、プリント用の「イベント ログ」レポートが開かれます。

- 7 [印刷] ダイアログ ボックスが自動的に開かれ、プリント パラメーターの設定を可能にして、「イベント ログ」が印刷されます。

「イベント ログ」のエクスポート

viewLinc で後日の分析用に 1 つの保存済みの .XLS ファイル内に イベント ログ データをエクスポートすることが可能です。

イベント ログをエクスポートする方法:

- 1 viewLinc 内で、[イベント] をクリックし、エクスポート対象としたい日付範囲を選択します。[日付/時刻] ボックス内に、日付および/または 24 時間表示で時刻を入力するか、またはカレンダー アイコンをクリックして選択を実行します。
- 2 日付および時刻セレクターの右側の各ボタンを使用して、「アラーム イベント」、「管理イベント」、「転送イベント」および/または「システム イベント」のいずれかを含めるか、含めないかを選択してください。
- 3 [更新] をクリックします。
- 4 [Excel へエクスポートする] をクリックします。「ファイルのダウンロード」ダイアログが開かれ、対象のイベント .tsv ファイルを開くかまたは保存かを確認します。

第章：レポート

viewLinc を使用して、ヴァイサラロガーにより収集された履歴データの変動を分析するグラフおよびレポートが作成可能です。

この章において、履歴データの意味とその使用法について学習します：

- 履歴データの分析
- グラフィカルおよびタブ形式での履歴データ レポートの生成



履歴データについて

ヴァイスアラデータロガーは、それらの内部に膨大なデータの量を記録する能力を保有しています。データは、10 秒間毎に 1 回から 24 時間毎に 1 回までの頻度でログされます。この頻度の設定には -- これはサンプル時間間隔と呼ばれており -- ヴァイスアラ Veriteq ロガーについては、『Spectrum ユーザーガイド』または『vLog ユーザーガイド』をご参照ください。300 シリーズ変換機用にサンプル時間間隔を設定するには、「電子メール設定の構成」、ページ 61 をご参照ください。

viewLinc により、対象ネットワークを通じてロガーについてリアルタイムでの監視が可能であり、諸条件のグラフでの変化、または異なったロガー間で記録された各条件を比較することが可能です。この分析は、[レポート] タブを使用して実行されます。

履歴データ レポートの生成

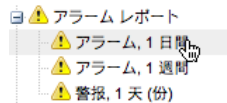
viewLinc は、データ読み取りまたはアラーム監視の統計 (アラームトリガーの頻度など) で簡単に傾向の表示を支援可能なグラフィカルレポートのセットを提供しています。

-  「アラームレポート」は、時間軸にわたるアラーム イベントの概説を提供しています (イベント アラーム関連したイベントが一緒にグループ化され、読み取り可能なフォーム内に提示されています)。
-  「チャンネルの履歴レポート」は、チャンネル値の詳細な履歴を提供しています (グラフィカルフォームおよび表形式フォームの両方で提示されます)。

アラーム履歴レポートの生成

「アラーム履歴レポート」生成の方法：

- 1 [レポート] タブ上の [アラーム レポート] リスト内で、生成しようとするレポートを選択してください。



レポート パラメーターは、ご利用の画面右側に現れます (ユーザーは、自身が生成しているレポートまたは所有者アクセス許可を供与されているレポートのレポートパラメーターのみを閲覧できます)。

- 2 【全般】 タブ上で、レポートが反映する期間を指定してください。デフォルトオプション【直近のイベント】、または固定の期間の範囲指定ができます。データ範囲を選択する場合は、カレンダーを使用して開始/終了日付を指定してください。

注意: 管理者アクセスを所有している場合、このレポートを変更または生成するアクセスを所有させたい対象のユーザーを「レポート所有者」を選択することができます (ユーザーのリストを設定するには、「ユーザー アカウントの作成」、ページ 67 をご参照ください)。




- 3 【一般】 タブの「スケジュールされた作成」エリア内で次のような構成ができます。ご使用になるレポートの形式 タブの「スケジュールされた作成」エリア内で次のような構成ができます。ご使用になるレポートの形式 (PDF または Excel 用のタブ区切り) を選択出来ます。自動的にこのレポートを生成し特定のファイル場所に保存するか、またはそのレポートを電子メールアドレス宛、アドレスのリスト (コンマを使用して電子メールアドレスをコンマで区切られた) 宛へ自動的に送信することが可能です。いつそのレポートを生成したいか、どのくらいの頻度で生成したいかをスケジュールすることも可能です。

注意: 大サイズのレポート データのセットについて、より少ない数のユーザーがこのシステムを利用している時、営業時間後などに、レポート生成をスケジュールされることを推奨しています。

- 4 【レポート内容】 タブ上で概略アラームレポート (アラーム毎に 1 行を割り当て) または詳細アラームレポート (すべてのアラーム事象についての詳細の表示: アクティブ化、通知、受信確認、その他などが含まれる) のいずれかを決定してください。
- 5 【レポートソース データ】 タブ上で、そのレポートの対象を定義してください。すべてのチャンネルからのアラーム レポートの詳細

細を含ませるのには、[すべてのチャンネル]を選択してください。特定のチャンネルおよびゾーンを選択することも可能です：

- a [選択したチャンネルおよびゾーン]のオプションを選択します。
 - b ゾーン内での1つのゾーン内で1つ以上のチャンネルを選択される場合には、その[ゾーン名](チェックボックス)を選択してください。
 - c ゾーン内で1つの特定のチャンネルを選択される場合は、対応する[チャンネルの説明](チェックボックス)を選択してください。
 - d これらのステップをそのレポート上に含ませたいチャンネル毎に繰り返してください。すべての選択済みチャンネルは「選択済み」領域内に現れます。
- 6 [ページ レイアウト] タブ上で、ご使用のレポート表示オプションを定義してください：
- a ページ ヘッダーおよび / またはページ フッターの各オプション：その ページ上に1つのヘッダーまたはフッターを表示させたいページを選択してください。そのヘッダーまたはフッターを定義されるには、テキストをその「左側」、「中央部」または「右側」のフィールド内に入力してください。
 - b 印刷したい印刷用紙のサイズ、および方向を選択することも可能です。
- 7  [保存] をクリックします。
- 8 そのレポートを手動で生成するには、[レポートを作成する] から、[Excel へのエクスポート] または [PDF レポートの生成] を選択してください、



チャンネル履歴レポートの生成

チャンネル履歴レポートの生成の方法：

注意： viewLinc では、いかなるデフォルトのチャンネル履歴レポートも提供していません。「チャンネル履歴レポート」を生成すると、そのレポートが自動的に保存されます。

- 1 [レポート] タブ上の [チャンネルの履歴レポート] リスト内で、生成しようとするレポートを選択してください。そのレポートの詳細がその画面の右側に現れます。


- 2 [一般] タブ上で、このレポートに対してアクセス権を付与したいユーザー（「フルコントロール」を付与されていない場合です）、およびレポートが反映する期間を指定するか、または[直近のイベント]を選択してください。
- 3 「スケジュールされた作成」エリア内で、ご使用のレポートの形式エリア内で次のような構成ができます。ご使用になるレポートの形式（PDF または Excel 用のタブ区切り）を選択出来ます。自動的にこのレポートを生成し特定のファイル場所に保存するか、またはそのレポートを電子メールアドレス宛、アドレスのリスト（コンマを使用して電子メールアドレスをコンマで区切られた）宛へ自動的に送信することが可能です。いつそのレポートを生成したいか、またどのくらいの頻度で生成したいかをスケジュールすることも可能です。


注意： 大サイズのレポート データのセットについて、より少ない数のユーザーがこのシステムを利用していている時、営業時間後などに、レポート生成をスケジュールされることを推奨しております。
- 4 [レポート内容] タブ上で、「ロガー サンプル」（該当データ ロガーの内部メモリから取得済みのデータ ポイント）、「ロガーサンプルの統計」（これは [統計設定] タブ内での [統計設定] の変更を可能にする）、「リアルタイム サンプル」および/または「しきい値」でレポートに含めたいデータのタイプを識別してください。
- 5 「ロガーサンプルの統計」を含めている場合は、[統計設定] タブを使用してどのように使用するレポート上で情報が表示されるか、およびそれに含めたいあらゆる統計的情報を定義してください。
 - a [統計設定] で、1 つのレポートの時間フレーム内で継続的に統計を生成したい場合には 統計インターバルを選択してください。たとえば、7 日間 (1 週間) の時間間隔を基準にご利用のレポートが生成される場合で、統計データを毎日表示されたい場合が考えられます。
 - b 「包める」項目のエリア内で、最大値、平均値。最小値、標準偏差および平均動態温度 (MKT) を含んだ統計データのタイプを選択してください：
 - その活性化エネルギーを指定したい場合は、「平均動態温度」を確認し、[KJ/mol] 単位表示で活性化エネルギーを指定してください。
- 6 [レポートソース データ] タブ上で、そのレポートの範囲および色を定義してください。すべてのチャンネル上でレポートを実行する

には、【すべてのチャンネル】を選択してください。特定のチャンネルおよびゾーンを選択することも可能です：

- a [選択した済みチャンネルおよびゾーン] オプションを選択します。
- b ゾーン内の 1 つ以上のチャンネルを選択するには、そのゾーン名を選択してください。
- c ゾーン内で 1 つの特定のチャンネルを選択される場合は、対応するチャンネルの説明のチェックボックスで選択してください。
- d そのグラフにインデックスを追加するには、【 マーカーを表示する 】を選択します。
- e 特定のチャンネルのデータを強調表示する色を指定するには、そのチャンネルを選択してから、【 色 】 ドロップダウンリストから 1 つのオプションを選択します。【Auto】を選択している場合、viewLinc はそのデフォルト色スペクトルに従って色を選択します：



- f そのチャンネル ライン色が「自動」に設定されている場合、viewLinc は色の組み込みパレットから次に利用可能な色を割り当てます (この色スペクトル シーケンスについては、ページ 103 をご参照ください)。これらをそのレポート上に含ませたいチャンネル毎に繰り返してください。すべての選択済みチャンネルは「選択済みゾーン」領域内に現れます。
- 7 [ページ レイアウト] タブを使用して、ヘッダー、フッター、用紙サイズおよび印刷方向を定義してください。
- a ヘッダーまたはフッターのオプションについては、すべてのページ上、最初のページ上のみ、最後のページ上のみ、または最初および最後のページ上のいずれかを設定可能です。
 - b ご使用のヘッダーまたはフッターの内容を定義されるには、テキストをその「左側」、「中央部」または「右側」のフィールド内に入力してください。
 - c 印刷したい対象の用紙サイズ、およびその方向を選択することも可能です。
- 8  【保存】をクリックします。

- 9 そのレポートを手動で生成するには、 [レポートを作成する] をクリックしてください。

第章：レポート

目次

数字

300 シリーズ送信機
出力の数 8

E

Excel レポート 29, 30, 31

I

Internet Explorer
設定 11

M

Microsoft Excel
viewLinc イベント ログおよび 26
ログのエクスポート先 26

P

PDF レポート 29, 30, 31

V

viewLinc
システムの概説 2
セキュリティ オプション 4
チャンネル
「マイ チャンネル」内での表示
4, 8
ログイン 3

X

xls ファイル 26

あ

アクティブなアラーム
表示 13
アラーム 17-21
アクティブ
表示 13
しきい値 18
ツリー階層 20

ロガー 19

ロガー校正アラーム
定義済み 19

検証 18

受信確認 14, 20

通信 18

複数の通知 20

アラームの実行状態、定義済み 10

い

イベント 26

コメントの表示 25

イベント ログ

エクスポート 26

コメントの追加先 25

印刷 25

表示 24

保存 26

イベント・ログ 23

え

エクスポート

イベント ログ 26

く

グラフ

読み取り 11

表示 11

こ

コメント

イベント ログへの追加 25

表示 25

さ

サンプル カウント 31

し

しきい値、読み取り 13

しきい値アラーム

定義済み 18

しきい値のサマリー、定義済み 10

システムの概説、viewLinc 2

せ

セッション有効期限 4

そ

ゾーン

表示 9

た

タイムスタンプ 10

タブ バー 9

ち

チャンネル 7-16

「マイ チャンネル」内での表示 4,
8

グラフの読み取り 12

開く 11

出力の数 8

チャンネルの説明

定義済み 10

チャンネルの値

定義済み 10

読み取り 13

チャンネル番号 10

は

パスワード

セッション有効期限後の再確
認 4

へ

ヘルプ 5

ゆ

ユーザー アカウント

ログイン 3

ら

ラージ チャンネル ビュー

グラフの読み取り 11

閉じる 11

ラージ チャンネル ビューを開く 11

ラージ チャンネル ビューを閉じる
11

れ

レポート 27

Excel 29, 30, 31

PDF 29, 30, 31

色 32

生成 28, 30

ろ

ロガー

検証アラーム 19

校正アラーム 19

ロガー検証アラーム

定義済み 19

ログ、イベント。イベント ログを
参照。

ログイン画面 3

わ

ワークシート、イベント ログ デー
タの格納場所 26

ん

印刷

イベント ログ 25

技術サポート 5

検証アラーム

定義済み 18, 19

校正アラーム 19

最小値 31

最大値 31

出力の数 8

出力の数、「チャンネル」をご参照く ださい	8
状態バー、定義済み 色	10
レポート用に選択	32
色の使用	
レポート用	32
設定	
ブラウザー設定	11
送信機	
出力の数	8
通信アラーム	
定義済み	18
通知	
校正	19
複数	20
統計時間間隔	31
統計設定	31
読み取り	
グラフ	
ラージチャンネルビュー内	
	12
しきい値	13
チャンネル値	13
標準偏差	31
表示	
アクティブなアラーム	13
イベントのコメント	25
チャンネル	11
平均値	31
平均動態温度 (MKT)	31
履歴データ	27
表示	11
目的	28

目次